

2009年度 牧羊者 第Ⅰ巻

中高科へのヒント 4~6月

4/5

●話し合ってみよう

1. 主イエスが十字架にかけられたとき、「太陽は光を失い、全地は暗くなって」とある。この暗やみは何を象徴しているだろうか。→ キリストが人々から拒絶されたことに対する神の痛み。
2. 45節の「聖所の幕がまん中から裂けた」とは何を表しているか。→ キリストの死によって、神に近づく道がすべての者に開かれたこと。神を礼拝するのにもはや、神殿における儀式がなくなったこと。

●考えてみよう

1. 46節の「父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます」と言われた主の言葉から何がわかるか。→ 父なる神のみ心に従って、意識的に人間のため、犠牲となって十字架にかかれたこと。
2. 主イエスの十字架を目撃して、百卒長が、「この人は正しい人であった」と言った。どのような意味で言ったのか。→ 単に法的に無罪の人であったというだけでなく、キリストの神性を告白したこと。
3. 群衆は胸を打ちながら帰った。この動作は何を意味しているか。→ 悲嘆、哀悼

●自分に当てはめよう

1. 主イエスの十字架の贖い^{あがな}で、聖所と至聖所の幕が裂け、大祭司という特別な人だけでなく、私たちも神との交わりが持てるようになった。あなたは、この十字架を通して、主の救いと交わりに入っているか。

4/12

●話し合ってみよう

1. 女たちが主の遺体^{うしな}に香油を塗ることができなかったのはなぜか。→ 主が十字架で死なれたのは金曜日の午後3時頃。その日の日没から安息日が始まるので急いで墓に葬られたため。
2. 女たちは不安であった。何が不安だったのか。→ 主イエスの墓の前が大きな石でふさがれ、中に入ることができないこと。

3. 石が墓からころがしているのを見た女たちは、どう思ったのだろうか。→ 墓荒しによる犯行と思ったかも知れない。

●考えてみよう

1. 墓の中の主イエスの遺体はどうなっていたか。→ 女たちが墓の中に入ってみると主イエスのからだが見当たらなかった。
2. 輝いた衣を着た二人の人が婦人たちに何を言ったか。→ 「あなたがたは、なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか」。
3. 5節「死人の中にたずねる」とはどういうことか。→ これまで亡くなった死人の中に捜すようなこと。
4. 弟子たちが婦人たちの話を聞いてどう思ったか。→ 愚かな話だと思った。

●自分に当てはめよう

1. あなたは死ぬことに恐れを抱いていないか。→ 主イエスは死に勝利された。それゆえ、よみがえられた主イエスを信じる者はよみがえらされる。それを信じよう。

4/19

●話し合ってみよう

1. 二人の弟子のうち一人の名前は何と言うか。→ クレオパ (18節)。
2. この二人は、嘆いていた。どんなことか。→ 救い主として期待していた主イエスが十字架で死んだこと。

●考えてみよう

1. この二人の弟子の目はさえぎられていた。どういうことか。→ 実際の肉眼のことではなく、霊の目のこと。
2. どうして主イエスは先に進まれたのか。→ 二人の弟子をもてなそうとして。
3. 二人の弟子は何がきっかけで主イエスがわかったか。→ パンを取り、祝福して裂いた姿を見て。
4. 二人の弟子は、最初暗い表情であったと思われる。しかし、希望に満たされた。どうしてか。→ 主のよみがえりを信じることができたから。
5. 二人の弟子が「お互い(い)の心が内に燃えたではないか」と言い得たのは、どうしてか。→ よみがえられた主の臨在を認めたところから始まった。

●自分に当てはめよう

1. 主はこの二人と一緒に歩かれた。このことから主は私たちとどのような関わりを持たれることがわかるか。→ 失意の中にいる者と共に歩まれる方。私たちの悲しみを主は知っておられる。

4/26

●話し合ってみよう

1. 主イエスの復活の顕現が3種類で記されている。それは、→①クレオバラ二人の弟子とペテロ。②それぞれへの個人的な顕現。③エルサレムでたくさんの弟子になされた顕現。
2. エマオの途上で復活の主と出会った二人の弟子は、どのような場面で復活の主とわかったと証しただろうか。→パンを裂く様子でわかった。
3. なぜ主イエスは両手、両足を弟子たちにお見せになったのだろうか。→確かに十字架にかかり、両手と両足に釘を打たれたことを示すため。
4. なぜ主イエスは「やすかれ」と弟子たちに言われたのだろうか。→弟子たちが恐れと疑いに支配されていたから。

●考えてみよう

1. 主イエスが示された両手と両足を見て、すぐ弟子たちは主イエスを信じられたか。→まだ信じられない弟子もいた。
2. その弟子のために主イエスは何をなされたか。→焼いた魚の一切れを食された。
3. 最初弟子たちが復活の主を見たとき、どう思ったか。→恐れ驚いて、霊を見ているのだと思った。

●自分に当てはめよう

1. 主イエスは確かに肉体を持って復活された。このことがあなたにどのような恵みを与えるか。→復活の希望と平安を与えてくれる。

5/3

●話し合ってみよう

1. 主イエスは、「モーセの律法と預言書と詩篇とに、わたしについて書いてある」と言われたが、これは、何の書のことか。→旧約聖書全体を示している。
2. 弟子たちは主イエスの語られたことがわからなかった。主イエスはどうかされたか。→彼らの心を開かれた(45)。
3. 2. の答えによってどうなったか。→弟子たちは、聖書を悟った。

●考えてみよう

1. 主イエスは弟子たちに新しい使命を与えられた。それは何か。→福音をあらゆる人に伝えること。
2. 主イエスは、「上から力を授けられるまでは、あなたがたは都にとどまっていなさい」と言われた。具体的にどういうことか。→主の約束を祈り待ち望むこと。
3. 証人とあるが何の証人か。→福音を証しする証人。
4. 「わたしの父が約束されたもの」とは何か。→聖霊。
5. 福音宣教はどこから始まったか。→エルサレム。

●自分に当てはめよう

1. 主イエスは、あなたが主の証人になることを願っておられる。そのためにも聖霊を授けられ、証しできるように祈ろう。

5/10

●話し合ってみよう

1. 聖書は、私たちがどうしたら良い生き方ができると言っているか。→主が定められた律法に従って生きること。
2. 聖書は、神の律法に従うことを何と言っているか。→義。
3. それでは、神の律法に従わないことを聖書は何と言っているか。→罪。
4. 出エジプト記20章に記されている十戒は、最初の四つ①と後半の六つ②に分けられる。①と②は、何の関係を述べているか。→①神との関係。②人間関係。

●考えてみよう

1. なぜ父と母を敬えと神は言われるのか。→主が賜る地で、あなたが長く生きるため。
2. 父と母を敬うことは、どのようなこととつながりがあるか。→神を敬うこと。
3. 尊敬できない両親であっても、敬わなければならないのか。→はい。
4. この戒めは両親に対しても言われていることであるか。→はい。子どもらの戒めであるだけでなく、両親は子どもに敬われるように、神の前に誠実に生きることが求められている。

●自分に当てはめよう

1. あなたは両親を敬っているか。→もしそうでないなら、主のみ言葉に従おう。
2. 今日は母の日、ジャービス夫人の追悼会から始まったこの日、母に感謝を表わそう。

5/17

●話し合ってみよう

1. ルカはテオピロにこの書を献呈している。このテオピロとはどのような人か。→ 地位も名誉もあるギリシャ人か、ローマ人。
2. テオピロにあてて書かれたことで何がわかるか。→ 聖書は、私たち個人個人にあてて書かれているということ。

3. ルカは先に「第一巻」を著している。それは何か。→ ルカによる福音書

4. その第一巻にはどのようなことが記されていたか。→ イエスの少年期、宣教、十字架の死、復活、顕現、そして昇天。

●考えてみよう

1. 主イエスが弟子たちにお命じになったことがある。それは何か。→ 父の約束を待っているように。
2. 主イエスは「聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて」と言われた。この力とは何か。→ 主を証しする力。
3. 6節で「国を復興なさるのは」と弟子たちが主に尋ねた。その国とは何の国か。→ ローマの支配下から独立した現実のイスラエルの国。
4. 主は再臨を約束しておられる。天使のどの言葉でわかるか。→ 「あなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになる」。

●自分に当てはめよう

1. ここに、主の復活の証人となることが語られている。私たちも聖霊の力に満たされよう。

5/24

●話し合ってみよう

1. オリブという山はどのような所だったか。→ 主イエスがよく祈られた所。
2. 彼らはエルサレム近くの家の上の間でひたすら祈りをしていた。なぜか。→ 1章4、5節の主のみ言葉を受けて。

3. 何人の者が主の約束を受けて祈っていたか。→ 120人（1章15節）。

4. 主の弟子たちは、泊まっていた屋上の間で、主の約束の実現まで何日間祈っていたことになるか。→ 10日間。

●考えてみよう

1. 14節には、「イエスの兄弟たち」も祈っている。この人々は、かつては主イエスに対してどのような態度だったか。→ 主イエスを神の子とは信じていなかった。
2. 14節に「心を合わせて」とある。彼らは、かつて心を合わせることができたか。→ いいえ。
3. 主イエスは、「間もなく聖霊によって、バプテスマを授けられるであろう」と、約束されていた。それなのになぜ祈らなければならないのか。祈らなくてもよいのではないか。→ いいえ、神が約束を与えられても、その約束の恵みを得るためには祈らなければならない。

●自分に当てはめよう

1. 弟子たちは、主の約束を待ち望み、ひたすら心を合わせて祈っていた。私たちも主の十字架を信じ、聖霊を待ち望もう。

5/31

●話し合ってみよう

1. 五旬節は、イスラエルではどんな日であったか。→ 刈り入れの祭りと呼ばれる収穫祭であった。

2. 今日の教会にとって、ペンテコステはどのような日か。→ 教会の誕生した日。

3. 教会とは何か。→ 「教会」とは本来、建物でも法人組織でもない。「教会」とはイエスをキリストと信じて告白する「人々」の集まりのこと。

4. ペンテコステ（五旬節）とは、「50日」目の祭りのこと。いつから50日なのか。→ キリストの復活後50日目。ちなみにキリストの昇天後10日目。

●考えてみよう

1. 聖霊は、どのようなしるしを伴って下られたか。→ ①突然天から激しい風が吹いて来るような響き。②炎のような分かれた舌が現れて一人一人の上にとどまった。
2. 4節「一同は聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、いろいろの他国の言葉で語り出した」とある。いったい何を語り出したのか。→ 十字架と復活の福音。
3. 主の弟子たちの説教を聞いた人々の反応はどうだったか。→ 驚き感う人。あざ笑う人がいた。

●自分に当てはめよう

1. 弟子たちの宣教の原動力は、聖霊に満たされたことだった。私たちも聖霊に満たされ、主の証人とされよう。

6/7

●話し合ってみよう

1. テサロニケ教会のクリスチャンたちに一つの不安があった。それは何か。→ 再臨の主が来られる前に召された人は、どうなるのかわからないということ。

2. 彼らはクリスチャンとなって、再臨以前に死んだ人々のことを気にしていた。なぜか。→ すでに死んでしまった人々は、主の栄光の日に復活にあずかれないと思ったから。

3. 主の再臨の時に起こる出来事には順序がある。それを述べよ。→ ①主ご自身が天から下って来られる。②キリストにあって死んだ者が、まず最初によみがえる。③生き残っている私たちが彼らと共に雲に包まれて引き上げられ、空中で主に会い、こうしていつも主と共にいることになる。

●考えてみよう

1. 主が天から下って来られる時に、三つのしるしが伴うことが記されている。そのしるしとは何か。→ ①合図の号令、②天使のかしらの声、③神のラッパ。
2. 私たちは主イエスの再臨について無知でもいいか。→ いいえ。
3. 望みを持たない人々とはどのような人々のことか。→ 神を信じない人々。

●自分に当てはめよう

1. 主の再臨は必ずある。その時の復活を信じる者は、希望に生きることができる。信じよう。

6/14

●話し合ってみよう

1. なぜ主イエスは心配するなと言われたのか。→ 神が養っておられるから。
2. 私たちは心配して自分の寿命を延ばすことができるか。→ いいえ。
3. 神の国を第一に求めるとはどういうことか。→ 主イエスを救い主として私の心にお迎えして神様を第一に、神のみ心に従って生きる。

●考えてみよう

1. 主イエスは、神の国を第一に求めるものに何をくださるか。→ 私たちの生活に必要なものすべて。
2. どうして、2. の答えがわかるか。→ ご自分の大切なひとり子さえも、私たちの罪の身代わりとして父なる神が与えてくださったから。
3. 思い煩いとはどういう意味があるか。→ 心がバラバラに引き裂かれて乱れてしまうということ。
4. 思い煩うなと言われたことは、何もしなくてもいいと言うことか。→ 将来に対する軽視、無計画、怠惰を勧めているわけではない。神に信頼せず、必要以上に心配することを戒めている。

●自分に当てはめよう

1. あなたは、これまで思いわずらってきたことがあるか。あなたの心配事の一番は何か。→ おそらく心配のない人はいないだろう。
2. 神は私たちの必要を満たしてくださる。思い煩うことなく、心から主に信頼しよう。

6/21

●話し合ってみよう

1. 家族関係は何によって保たれるか。→ 父母と子どもの健全なコミュニケーションによって保たれる。
2. ここでは、家族関係の重要性を教えているが、何が最も重要だと言っているのか。→ 父母の訓戒に子どもが従うこと。
3. 両親が子どもに与える戒めの規準は何か。→ 律法（み言葉）。
4. 父親の子どもへの役割は何か。→ み言葉に基づく戒めを教え諭す役目（参照 エペソ 6・4）。
5. その役目を果たすための父親のすべきことは何か。→ 父親自身が、主の前に真実に歩むこと。

●考えてみよう

1. 父親の心がけるべきことは何か。→ 子どもに愛情をもって、良い関係を保つこと。
2. 子どもが軽んじてはならないことは何か。→ いたずらに親に逆らい、その教訓を軽んじ、主の道からそれること。
3. 21節に「…あなたの首のまわりにつけよ」とある。どういうことか。→ 父母の教えを宝石の飾りのように大切にすること。
4. 旧約における反面教師の記事はなにか。→ シロの祭司エリの子どもらが、主の供え物を軽んじたこと（サムエル上 2・12～）。

●自分に当てはめよう

1. 父の日の今日、私たちを愛し、教え導いている父に従おう。

6/28

●話し合ってみよう

1. コリント教会の人々が持っていた二つの疑問は何か。→ ①どんなふうにして死人はよみがえるのか。②どんなからだをしてくるのか。
2. 1. のような疑問が出てきたのはなぜか。→ コリント教会の人々の中に死人の復活を否定する者がいたから。
3. 1. の①に対してパウロはどう答えたか。→ 復活は、まかれた種が一度死んで、それから新しく実を結ぶようなものである。
4. 1. の②に対してはどのように答えたか。→ 地上にまかれた種がそれぞれ新しく生まれ変わるように、死人も全く新しいからだをもってよみがえる。

●考えてみよう

1. 肉のからだと霊のからだとある。① 霊のからだとはどんなからだか。② 肉のからだとはどんなからだか。→
①この世ではなく、来るべき神の国に住むに相応しい朽ちることのないからだ。
②それは、この世の営みの中で朽ち果てて死すべきもの。
2. 私たちは霊のからだによみがえる希望にあずかっている。それは具体的に礼拝の中のどの部分か。→ 聖餐式せいさんしきの中で。

●自分に当てはめよう

1. 終りの日に、主のように、私たちにも霊のからだを与えられることを確信し、希望をもって主の業に励もう。